

各位

全3ページ
登録速報(2021-224)
2021年10月27日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2021年10月27日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号 第 23207 号
名 称 ツインターボ顆粒水和剤

2. 変更の内容

農薬登録申請書第6項「農薬の適用病害虫の範囲及び使用方法」を以下のとおり変更する。

- ・作物名「稲（箱育苗）」に希釈倍数「高密度には種する場合は100g/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り5～10g（希釈倍数50～100倍）」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」のクロチアニジンを含む農薬の総使用回数「4回以内（移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内）」を「4回以内（移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内）」に変更する。
- ・作物名「稲」のクロチアニジンを含む農薬の総使用回数「4回以内（直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内）」を「4回以内（直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内）」に変更する。

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	加チアジンを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イトメイシ イネズグウムシ	100倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり 500mL	移植3日前 ～移植当日	1回	灌注	4回以内 (移植時 までの 処理は 1回以内、 本田での 散布、 空中散布、 無人航空機 散布は 合計 3回以内)	3回以内 (移植時 までの 処理は 1回以内、 本田では 2回以内)
		高密度に は種する場合は 100g/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り5～10g (希釈倍数 50～100倍))						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	加チアジンを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イトメイシ イネズグウムシ	100g/10a	移植時	1回	ペ-スト肥料に 混合し 側条施肥田植機で 施用する。	4回以内 (直播では種時 又は移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人航空機散布は 合計3回以内)	3回以内 (直播では 種時又は 移植時までの 処理は 1回以内、 本田では 2回以内)

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第7項「農薬の使用上の注意事項」に(5)として以下を追加、現行(5)を(6)に変更し、別紙のとおりとする。

【追加事項】

- (5) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が100g/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を5から10gまでの範囲で調整すること。

別紙

【変更後】

7. 農薬の使用上の注意事項

- (1) 本剤をペースト肥料と混合して側条施用する場合は次の事項に注意すること。
 - ① 予め本剤を同重量の水に混ぜ、これをペースト肥料に加えて均一に混合し、側条施肥田植機で本田に施用すること。
 - ② 本剤と混合したペースト肥料はその日のうちに使用すること。
 - ③ 砂質土壌及び漏水の大きな水田での使用はさけること。
 - ④ 同一の病害虫を防除対象とする育苗箱施用薬剤とは併用しないこと。
 - ⑤ 使用した機械を洗浄する際は、洗浄水が水路等に流入しないよう注意すること。
 - ⑥ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (2) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- (3) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないこと。
- (4) 本剤を稲（箱育苗）に使用する場合、きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理すること。
また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけること。
- (5) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が100g／10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を5から10gまでの範囲で調整すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上